

キャベツだより

一九七四年二月一五月初版発行

著 者 長 新太 ©1974

発行者 大和岩雄

発行所 大和書房

東京都文京区関口一―三三

郵便番号 一―一―二

電話 (〇三) 四五一一

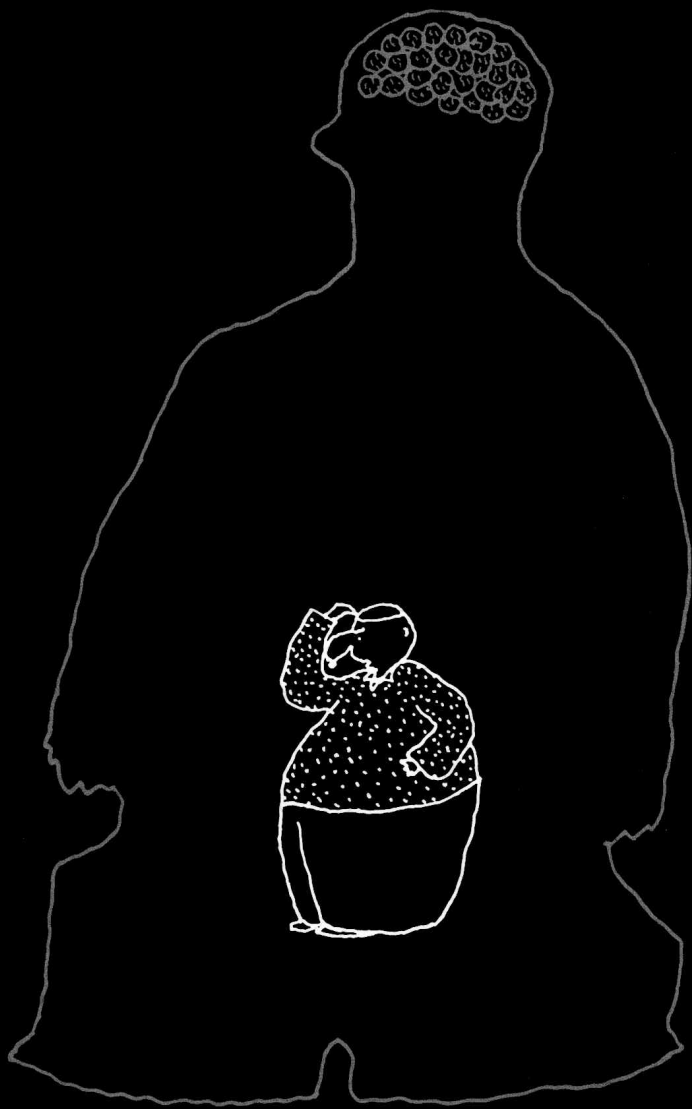
振替東京六四二二七

印刷所 信毎書籍印刷

製本所 ナショナル製本

1393-880130-4406

キャベツだより○長新太



キャベツだより

日本の秘密結社

ふとつちよガイコツ団 8

四つん這い団 12

けつめい団 16

ハナちようちん団 20

グチャグチャ海綿団 24

ちよつちよ団 28

アメンボ団 32

インキ団 36

ホロホロたまねぎ団 40

プランクトン団 44

キャベツだより

犬頭人とは⁹⁰ 偏執狂的ヘッピー虫⁵²
△破滅への道△は地図に出ているか⁵⁴

異種交配の結末⁵⁶ わたしの心臓時計⁵⁸

透明な色眼鏡について⁶⁰ パンツに頭部を入れたまえ⁶²

深度五万メートルの沈鬱⁶⁴ のどチンコ舌説⁶⁶

ジャムづくり⁶⁸ 〈靈的存在〉についての所感⁷⁰

なまこの主張⁷² 水素と酸素の化合物⁷⁴

蓮根の訪問⁷⁶ オルデンバークの作品⁷⁸

帝国ホテルの五目ワンタンメン⁸⁰

睡眠不足解消法⁸² 吸血鬼の正体⁸⁴

そっくりの男についての考察⁸⁶ ふくらむおケツ⁸⁸

シャボンケンシュタイン⁹⁰ キャベツだより⁹²

アンモニア

コブ⁹⁶

梅ぼしとアメ玉¹⁰⁰

坂の街¹⁰⁴

水族館にて¹⁰⁸

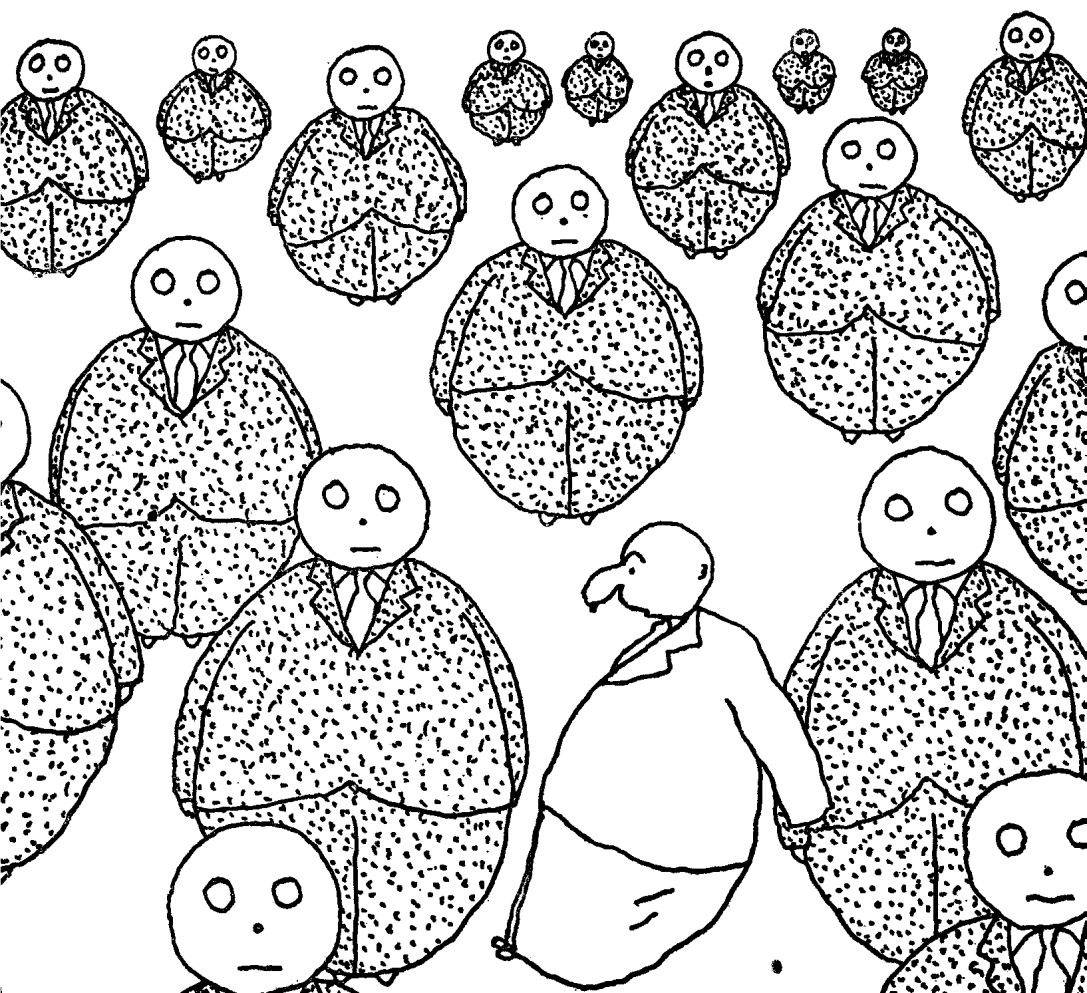
標本を買った日

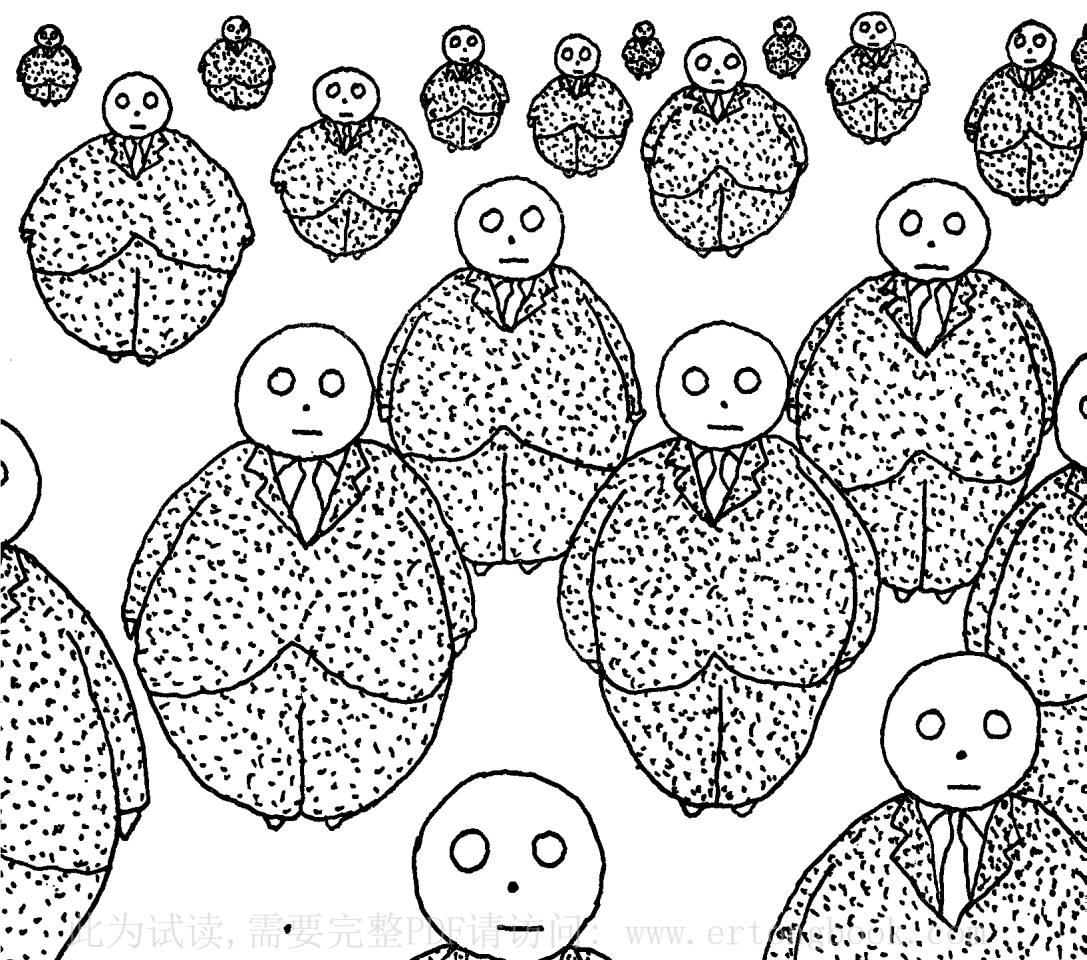
漢方薬店	116
夜の男	120
ガス男	124
夜光虫海岸	128
こんにやく村探訪記	132
面接	136
毛虫神社	140
アンモニア	144
セーター	148
膝小僧皿吉	152
カバン売り場	156
あとがき	160

装本 中島かほる
装画 長新太

日本の秘密結社

ふとつちよ
ガイコツ団





秘密結社というものは、そもそも秘密がたてまえなのであるから、昆虫が羽化する如く、ひそかに活動しているのが本格的であって、アメリカのクー クラックス クラン（KKK）のように有名なものは、秘密結社としては失格である——というのが、わたしの持論であります。本来ならば、わが国の秘密結社を、こうして公開すること自体、前代未聞のことであって、わたしはいくぶん逃げ腰で、これを書いているのが実状なのであります。

いつなんどき、かぎりなく冷酷な彼らの魔の手が、わたしのおケツのあたりに伸びるかもしれませんからね。それはともかくとして、はじめに紹介する「ふとっちょガイコツ団」とは、何でありましようか!?

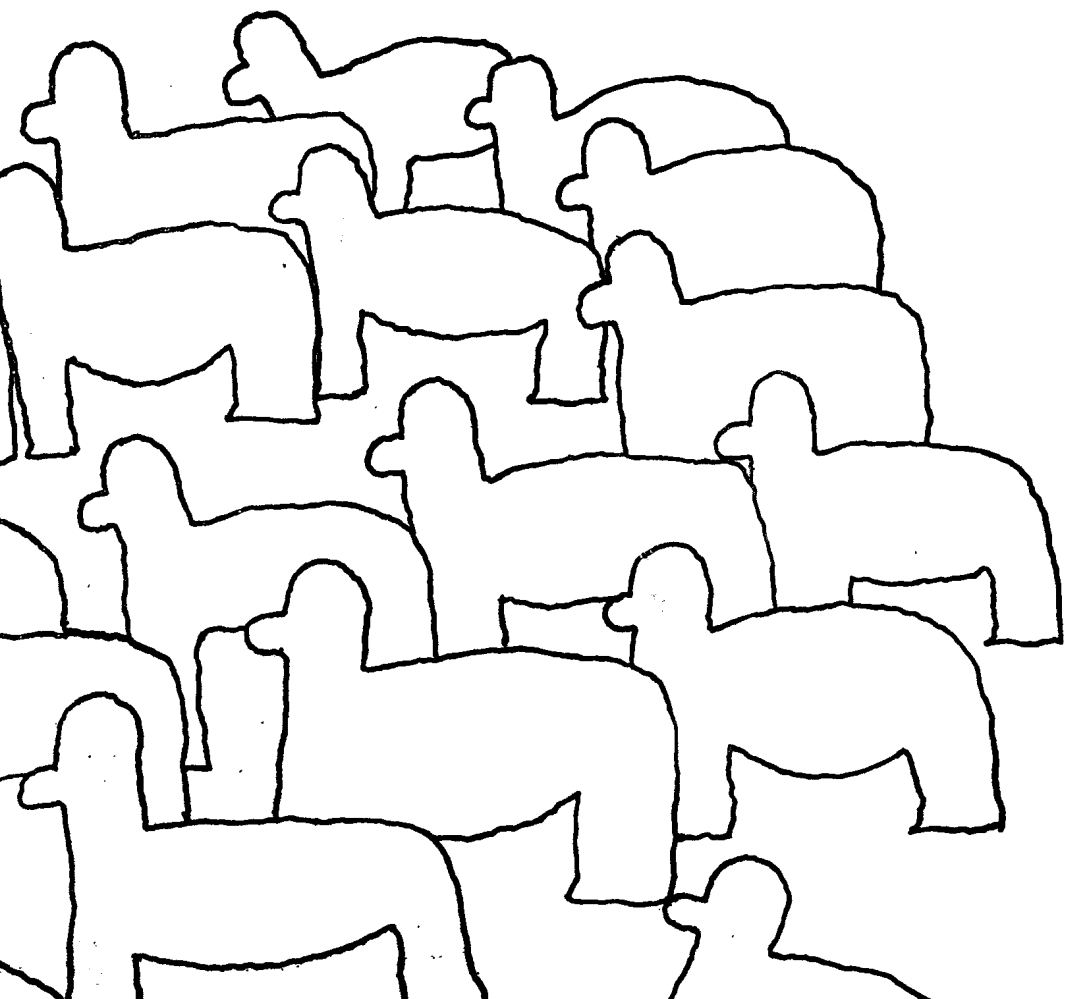
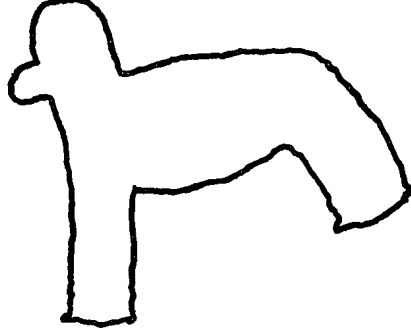
彼ら（男ばかりなのだ）は、ふだん、どんな風体をしているかというと、これはまったく通常の人間と変らなくて、ごくありきたりの背広なんか着用していて、地下鉄なんかにも乗ったりしているけれど、よく見ると、皮も無ければ、肉も無く、血液も無ければ毛も

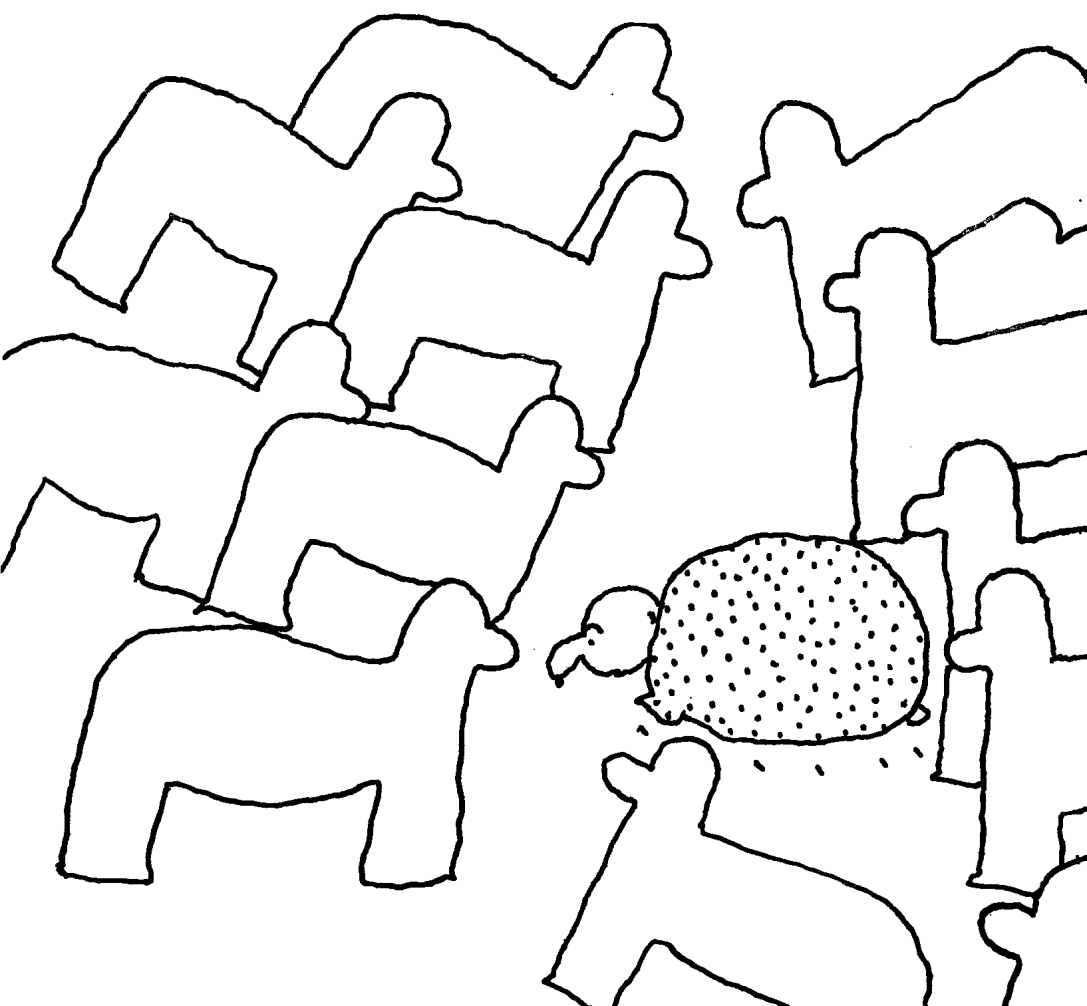
生えていない本格的なガイコツなのね。ガイコツというものは、そもそもやせているのが普遍的でありまして、いくらふとちゅの人でも、骨格のたくましい人でも、ガイコツになれば、カルシウムの多い組織ですから、やせております。しかし、どうしたわけかこの秘密結社の団員は、ことごとくふとちゅガイコツで、信じられないけれど、骨がまるまると肥満しているのね。ふつう、頭蓋骨は、十種十五個の骨で構成されているけれど、それぞれの骨がふつくらした感じなのよ。

したがって、ガイコツであっても、さわってみないぶんにはわからないわけ。

彼らの目的は、人間を骨抜きにしたり、骨違いにしたり、骨がらみにしたりして、破滅に導くのですから、われわれにとっては、恐怖の秘密結社なのであります。

四つん這い団





これは動物崇拜主義を唱えた秘密結社であって、人間以外の動物を神とうやまう狂信的集団であります。動物崇拜は、自然崇拜につながるものであって、彼らは人類撲滅が主目的なのであります。通常は変りないけれど、深夜になると、犬や猫とまったく同様に、四つん這いになって行動するのが特性であって多分にストイックな彼らは、動物性タンパク質などは摂取せず、動物繊維はいっさい身につけません。とにかく、われわれにとって、得体の知れない空恐しい団体であることは間違いないのであって、深夜、四つん這いの男（たとえそれが酔っぱらいであろうと）に出っくわしたら、われわれは最後のドタン場だと思わなくてはイカン。団員の中には女もいるから、油断は禁物なのだ。深夜、女が目の前で四つん這いになっていたら、コーフンなどせず、息を殺してあたりをうかがい、手足及び、首を可能な限りちぢめて、服の中にかくして、カメのようにうずくまり、敵の牙（彼らは噛みついてくるのよ）を避けなくてはいけません。「うへっ、逃げろー」などと一目散に駆け出したりし

たら、彼らや、悲哀と絶望たちがあなたを襲うでありますよ。

だいたい、四つん這い団は犬猫と同じくらいのスピードで走るし、犬などは逃げると追跡する習性がありますからね。それに只の犬と違って、動物の骨などを投げてやったってダメですからね。彼らは人間だし、動物崇拝者ですから余計に逆上してしまう。

まあ、イヨネスコの小説みたいに、空中歩行が出来れば危機を脱出できるけれど、なにもそこまで飛躍しなくてもいいのであって、わたしなどは「シッ、シッ」と、ごくありきたちの犬を追いはらうように、片手でもってやるのです。犬猫になりきっている四つん這い団は、そそくさと用事を思い出したように行ってしまうのね。簡単なのよ。